ン！ひっ！
あっ
ああ！
もう
いきたくないっ！
ああああああ

ゆるしてえ！
ドプッ！
もう無理いいいい！
るるるる

魔法大国ドルイド王国

白魔術を用いた畜産で
繁栄していた

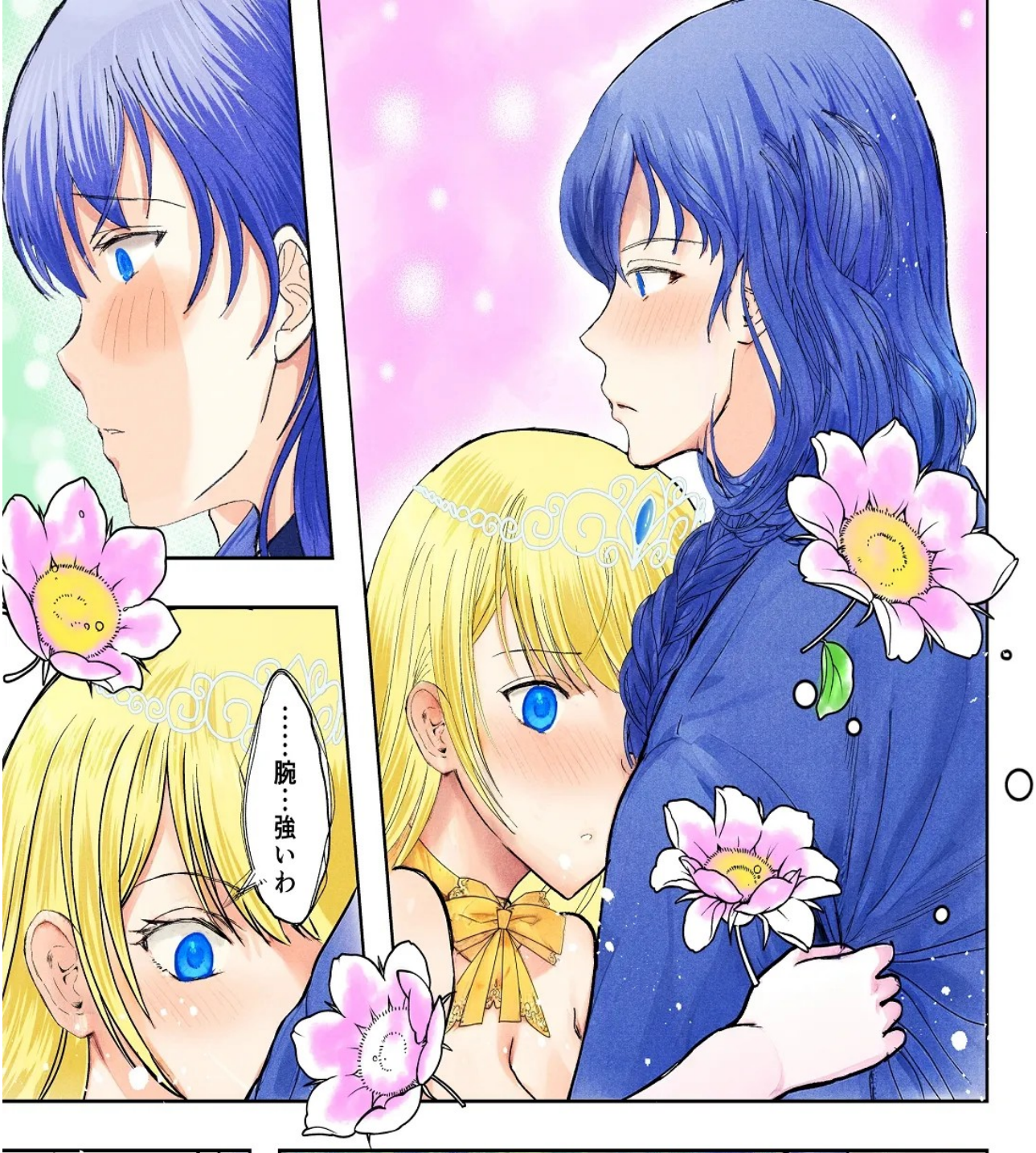
姫～
デアドラ姫～
宰相がおよびです
また姫が詩文の授業を
さぼっていたと
5

宰相に怒られるのは私なんですからね
「まったく！貴様は幼少からの側近ながら姫を猿に育てるつもりかね?!」っと
あらら宰相のモノマネ上手いわね

…お陰様でそれだけ怒られたんです！

それじゃあ眉間にしわを寄せる係の顔色伺いに戻りまー

わ?!
グラッ
姫?
あぶなっ


……腕…強いわ

申し訳ありません姫！
びっくりしたわ

でも

嬉しい
…
姫
元は下僕だった
あんたの父親を
引き立ててくれたのは
デアドラ様のお母上だ
感謝はしても
デアドラ様を
想ってはいけないよ
ノイッシュ
私も…
うん
分かってるよ
ばあちゃん

私にとっての貴方は
「姫」です
…
そう…
今のは忘れて
わたくしにとっても
貴方は素敵な従者よ

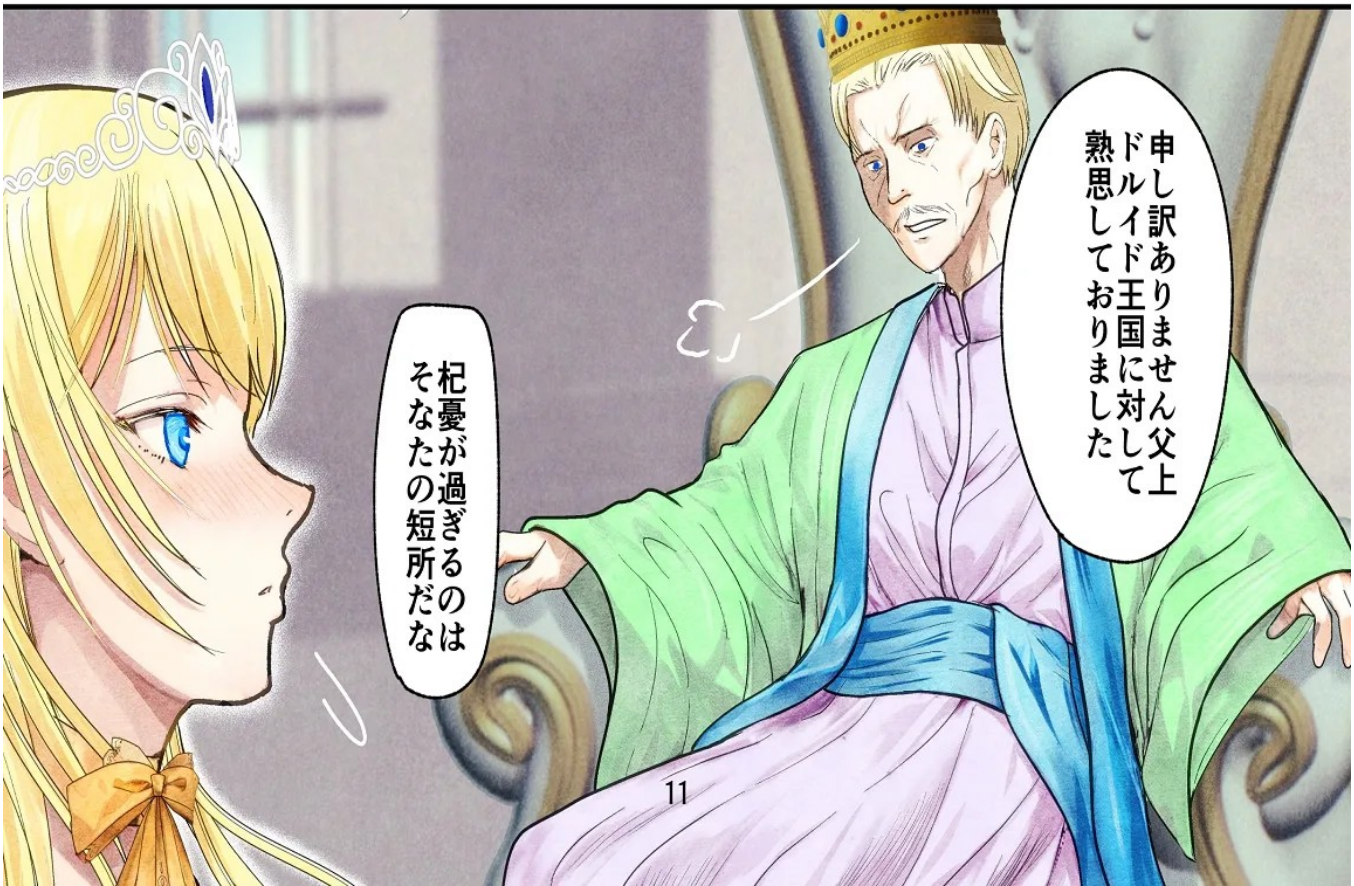
この度は拝謁のお時間ありがとうございます
陛下
そう固くなるでない
今は公の場ではないのだから
よいよい今は側近のみ
昔のように呼んでくれ
ご配慮おそれいります
父上
ご用件とは？
うむ
ドルイド王国か親睦会を開きたいと言ってきておる
隣国が！
アルスターが王位継承後急成長を続けるやり手だが
兄と父王が全員不審死を遂げるなど黒い噂も多い

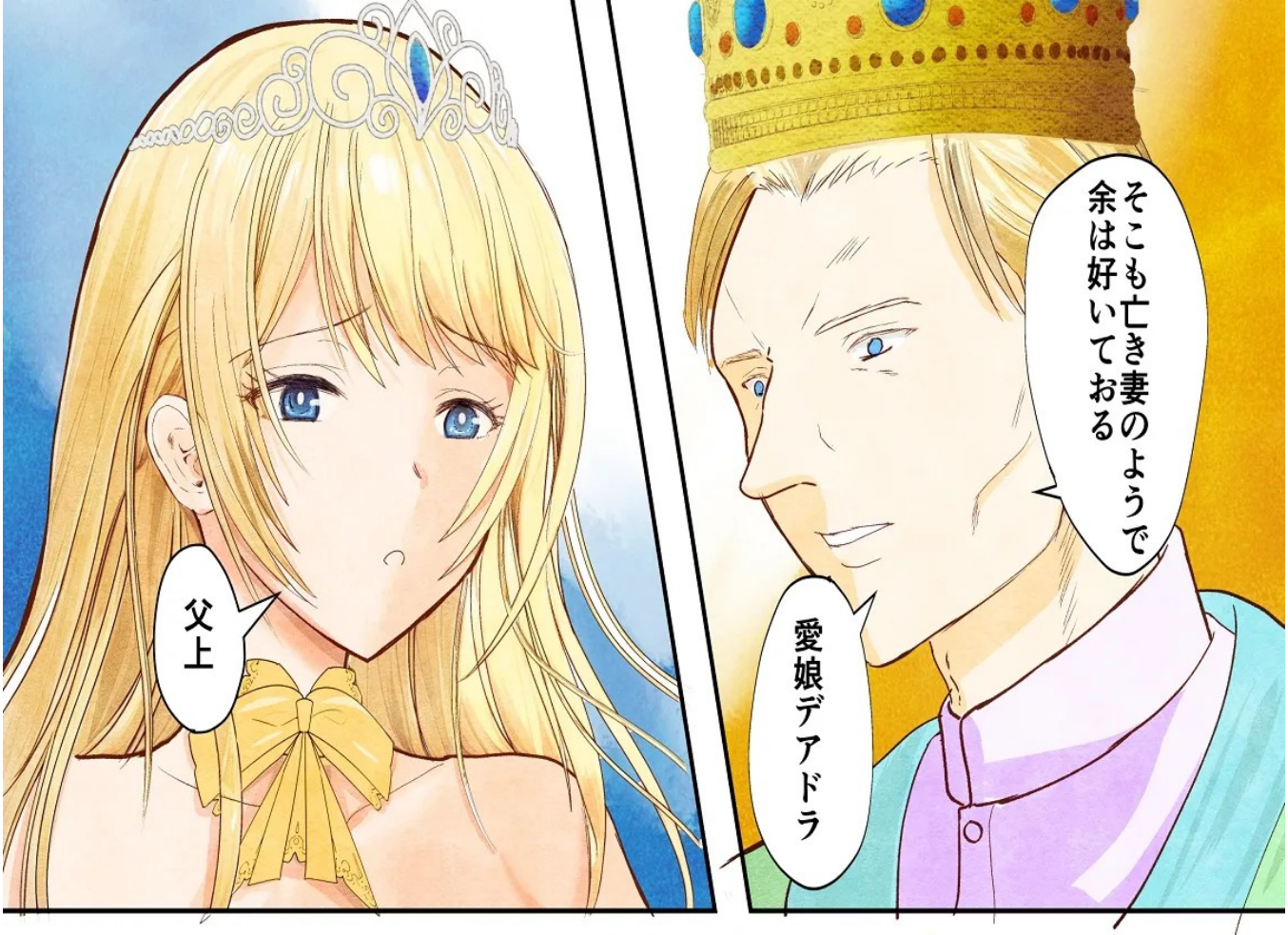
アルスター王ー

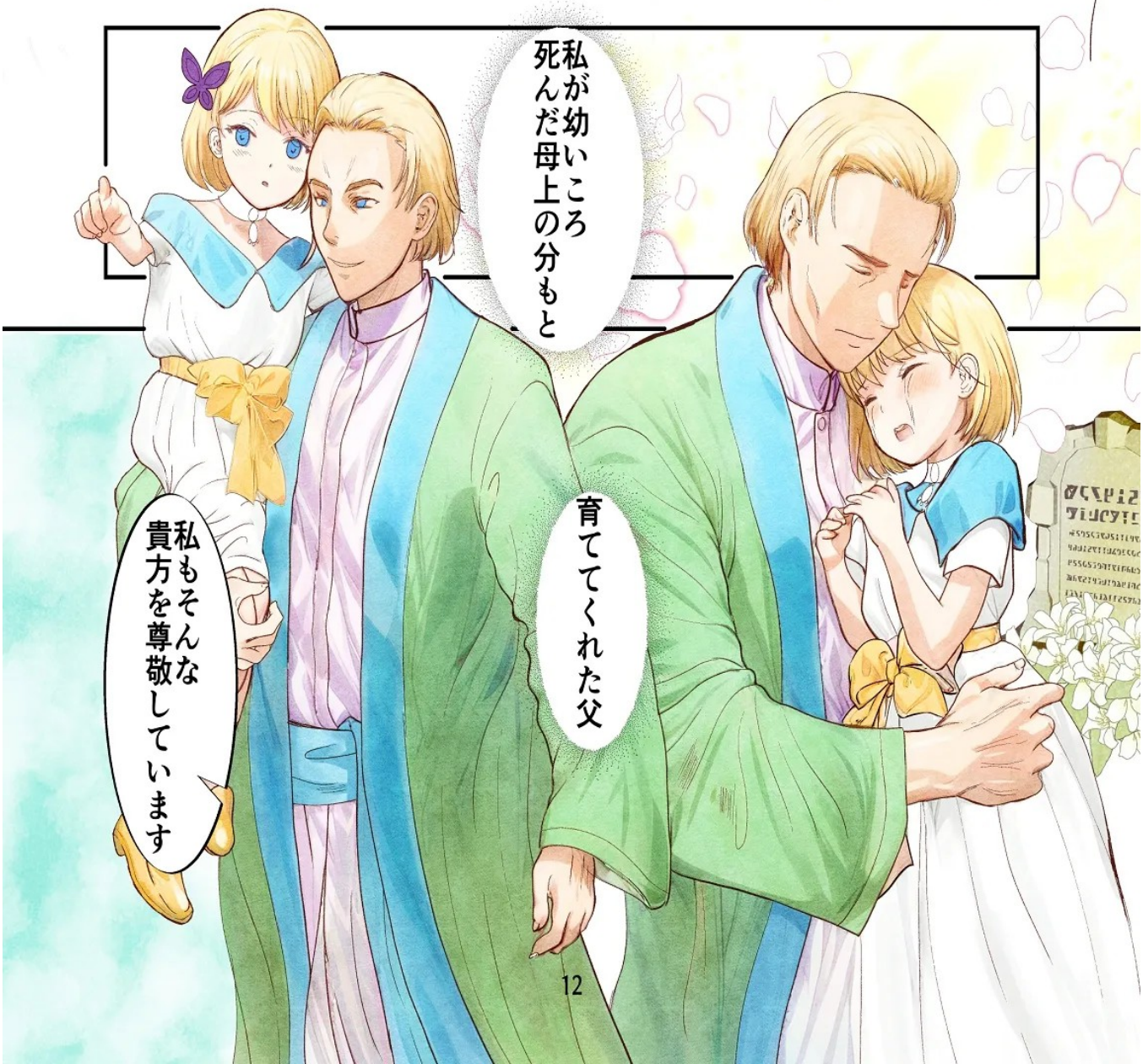
前に一度謁見したけど苦手…
お初にお目にかかります王

――初めましてデオドラ姫

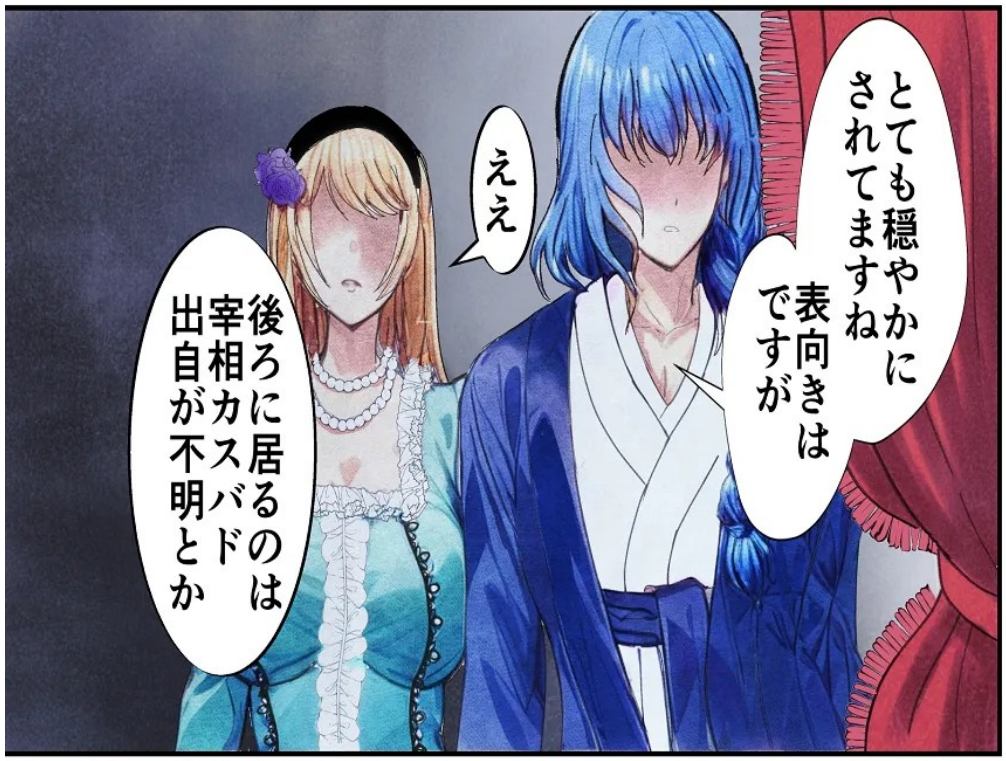
姫？
は？
デオドラ！！


申し訳ありません父上ドルイド王国に対して熟思しておりました
杞憂が過ぎるのはそなたの短所だな


そこも亡き妻のようで余は好いておる
愛娘デアドラ
父上

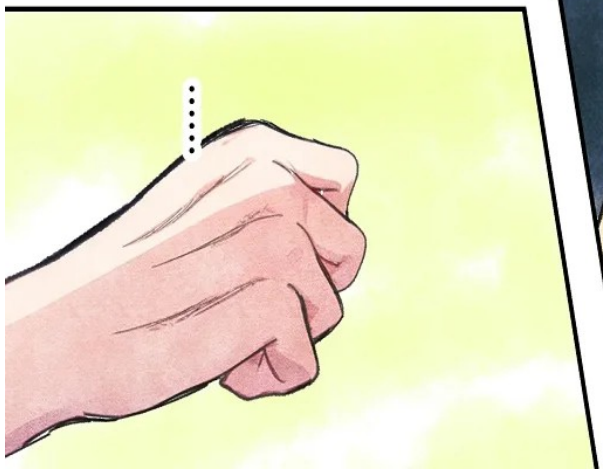

私が幼いころ死んだ母上の分もと
育ててくれた父
私もそんな貴方を尊敬しています

ザワッ
ザワッ


とても穏やかにされてますね
表向きはですが
ええ
後ろに居るのは宰相カスバド
出自が不明とか

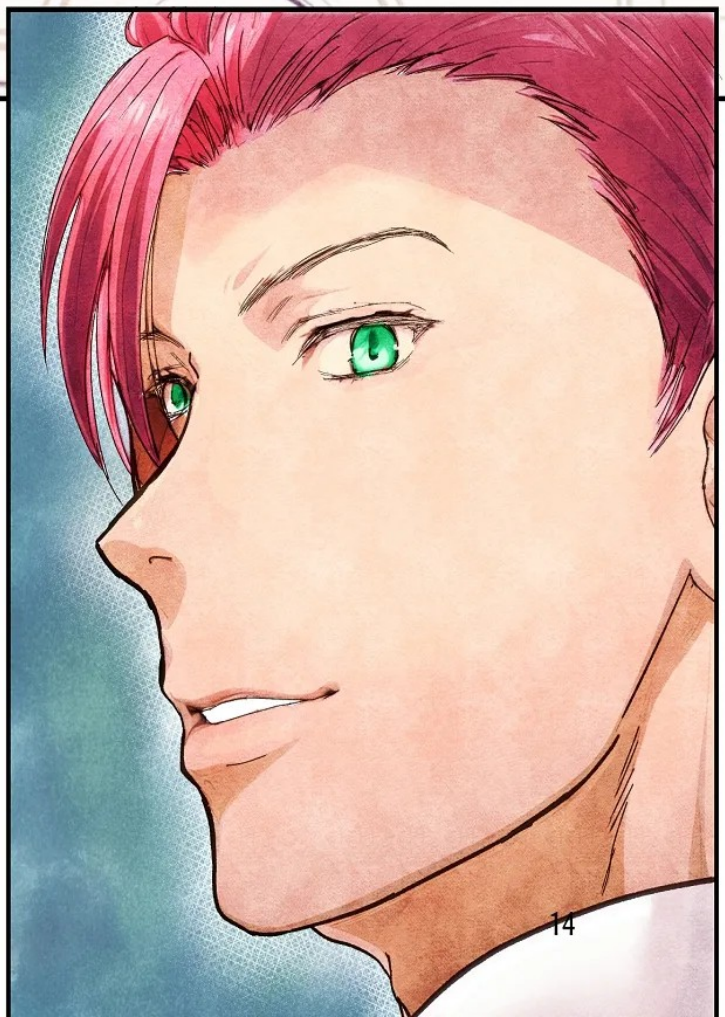
姫

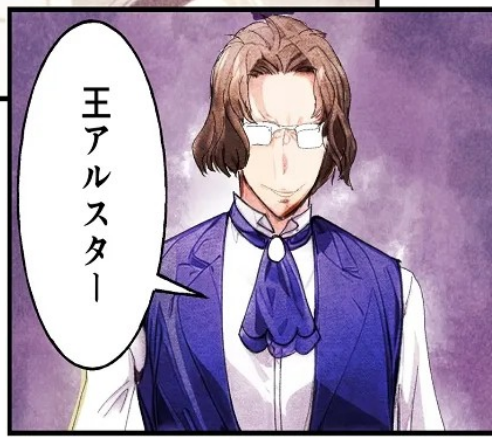
もしかして私の不手際を口実にされる可能性があるかもしれない
こわい…

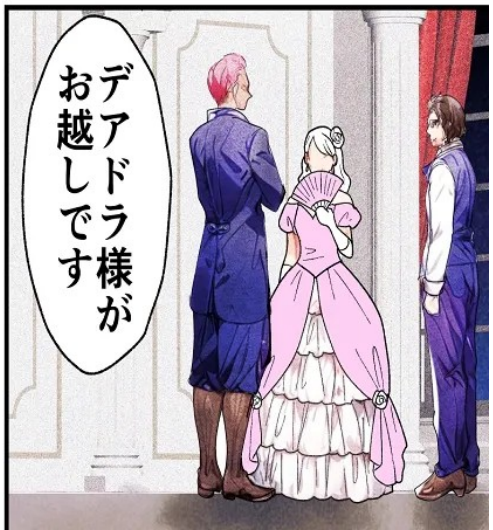

……

行きましょう

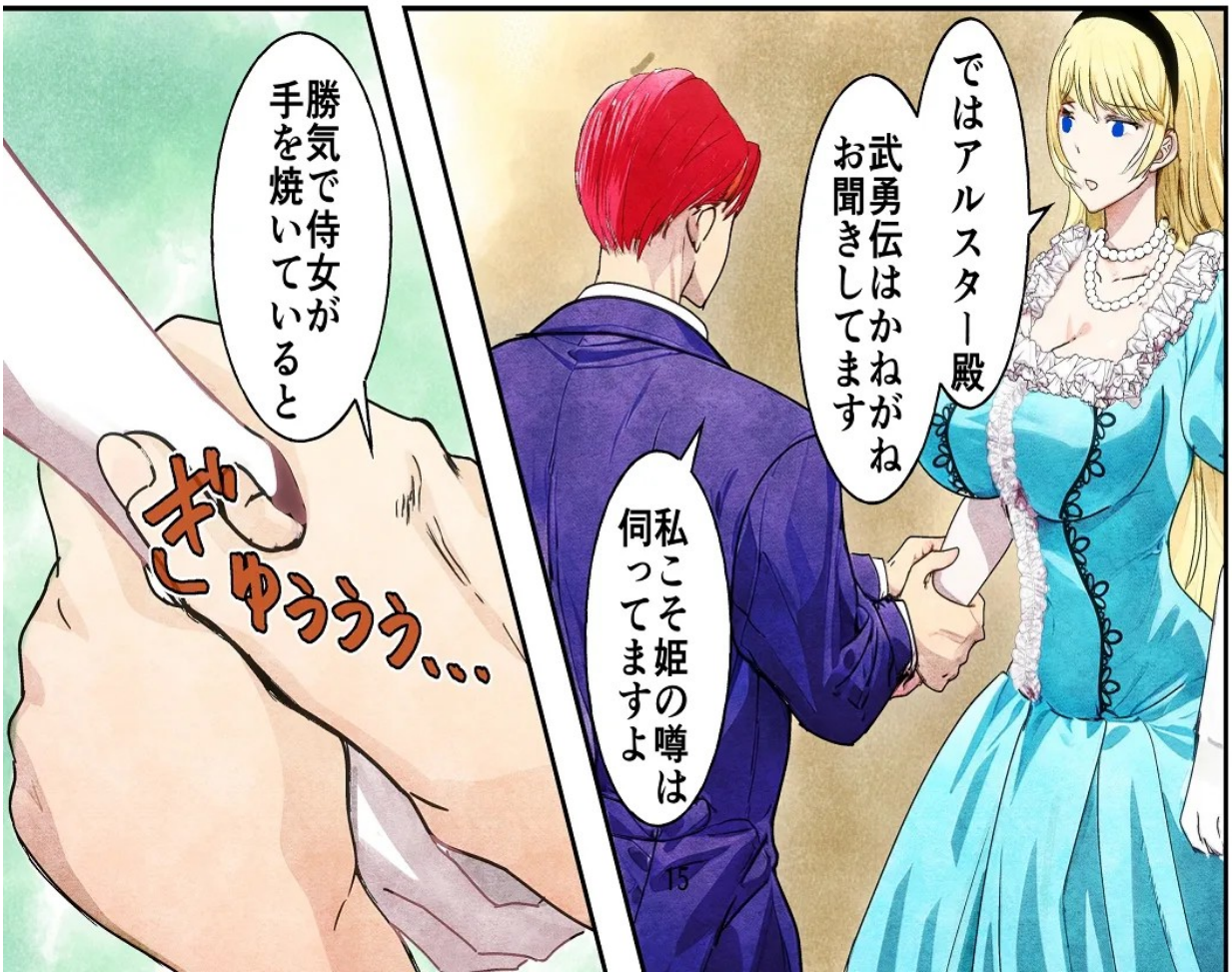
はい
デアドラ『様』




王アルスター


デアドラ様が
お越しです

これはデアドラ姫
相変わらず見目麗しい
この度はお招き
有難うございます王
アルスターと
お呼びください


ではアルスター殿
武勇伝はかねがね
お聞きしてます
私こそ姫の噂は
伺ってますよ
勝気で侍女が
手を焼いていると
ぎゅうううう…

私と踊って頂けませんか？

喜んで

絶対に気を置けない相手！
失態のないようにしないと

何を考えておいでですか？

おっしゃる意味が…
私は目の前の貴方の事だけを見ていますわ

バッ!!

気になりますか?

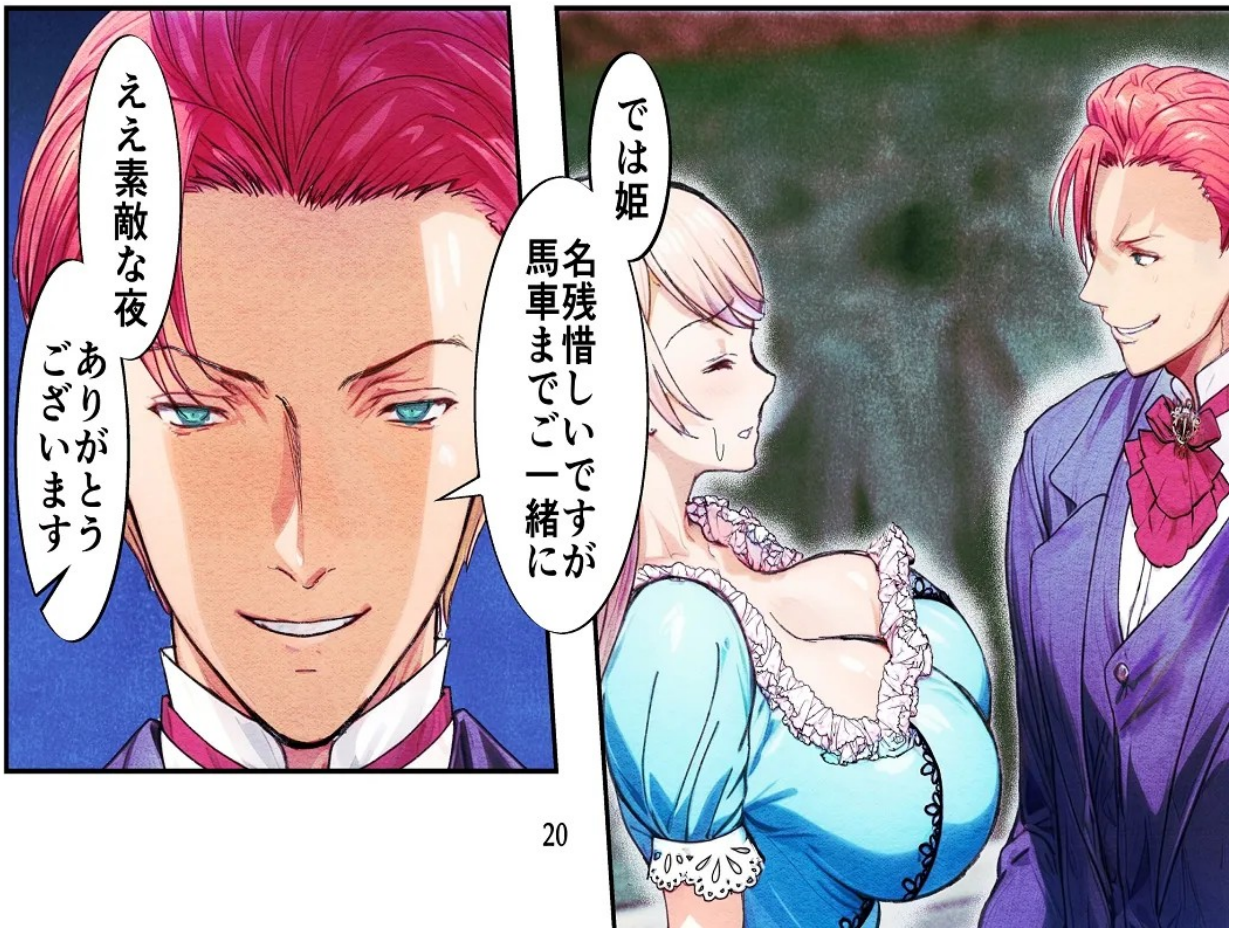
私が言ってるのは

これはカスバド殿
侍従長たるもの姫の身の振りは気になるのが当たり前では?
ふふっ

貴方の気持ちの方ですよ

姫のような方を
この部屋に
晒すのは惜しい
もう少し私の隣に
いてくれませんか？
今宵の舞踏会の華は
まさに貴女だった

ふふっ
すべての視線を
奪われるほどに
お上手ですわね
アルスター殿


では姫
名残惜しいですが
馬車までご一緒に
ええ素敵な夜
ありがとう
ございます

カラ…
カラ
ええ
ただ
何か胸騒ぎがするの…
つつがなく
終わりましたね
王アルスター
以前の調査結果が
届きました
カサッ
やはりか

ドルイド国
神官

ぎぃぃっ

ドサッ
きゃあああああああ！
どうした？
お前、国境の調査に行った新入りか？

館…地下があって
しっかりしろ！敵はどんな奴だ？
フロイヒ軍か!?

仲間が…みんな闇に喰われた…

違っ…隣国じゃな…いあれは…

ピッ

ズバッ!
やめあああああ!!
これは騒乱の幕開けだ!
相手は小国!防御魔法を張れば負けぬ!
敗戦国ノ王女

××××年○月
圧倒的な戦力を
誇ったドルイド軍
だが……近衛隊長の
裏切りが
すべてを崩壊させ
ドルイド国は
数日で陥落した

ゴオオオ
裏切りだ！
近衛隊長が裏切ったぞ！

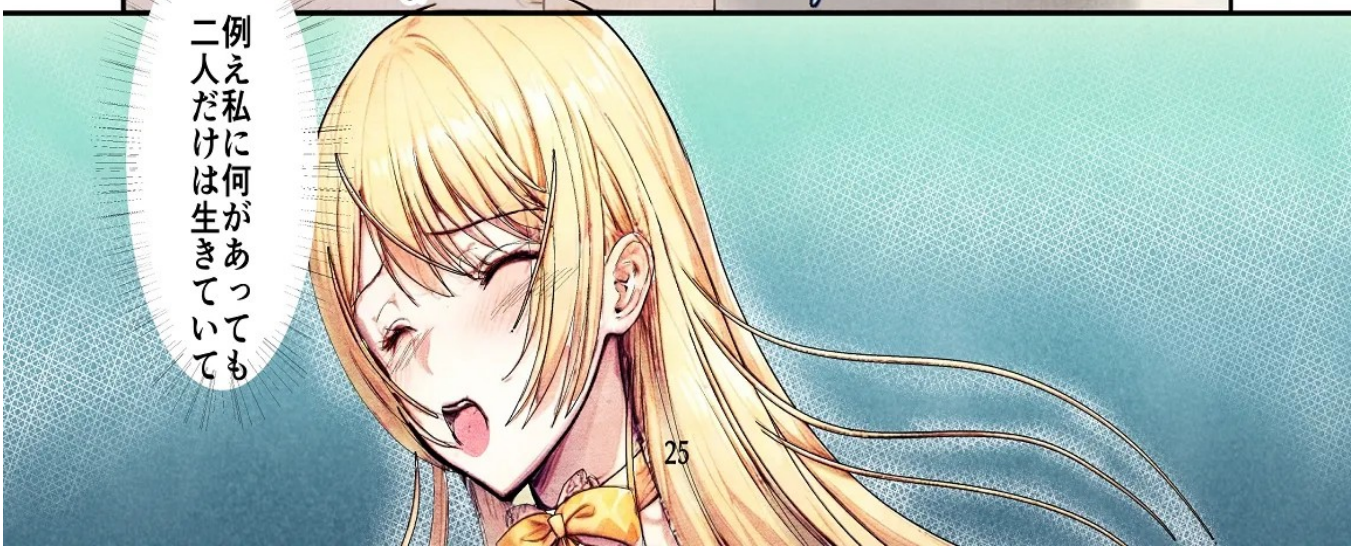
父は？
ノイッシュはどこなの？！

…父王様もノイッシュも助かりません
我々が足止めします姫様だけでも！

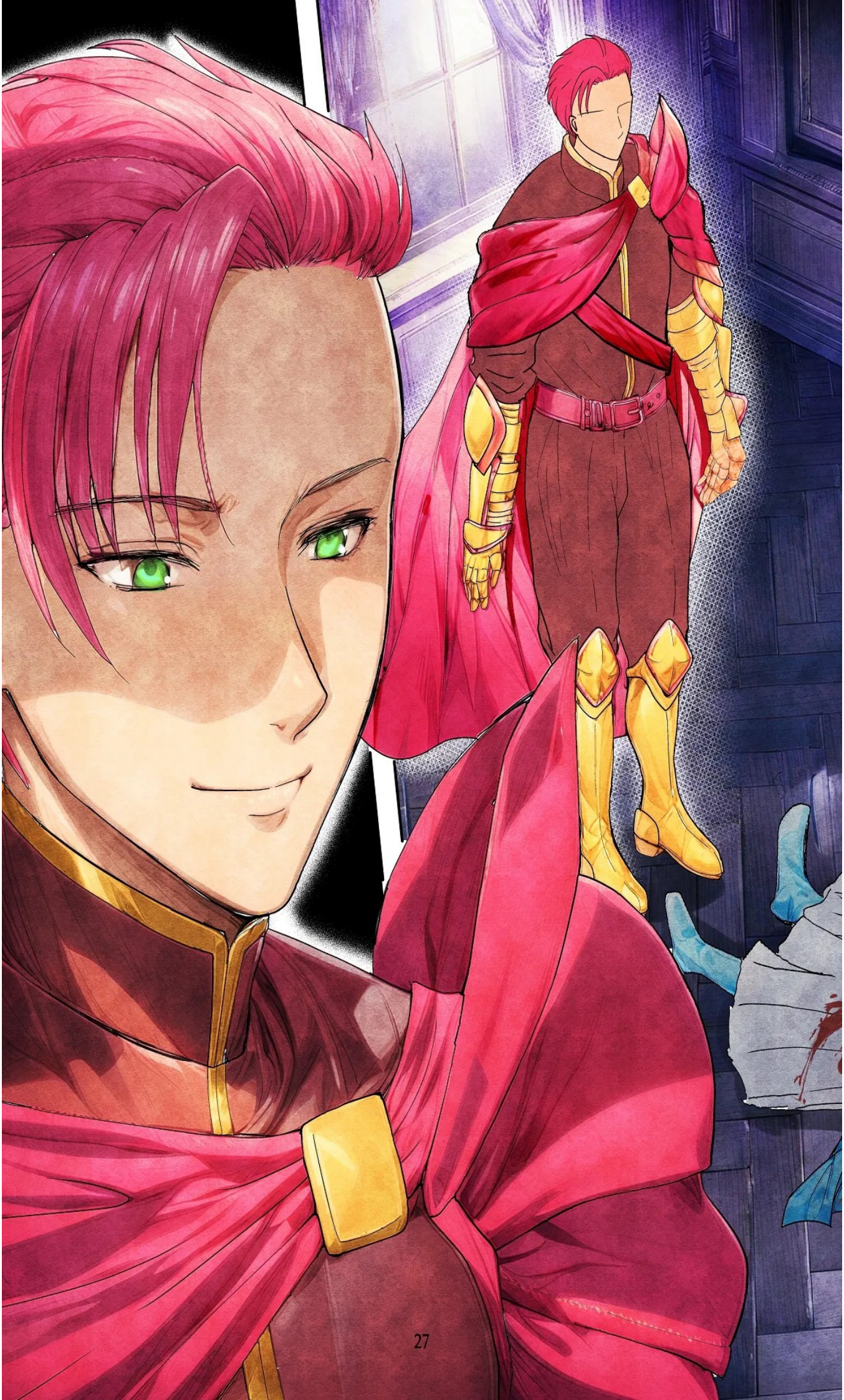
ドン
きゃあ？！

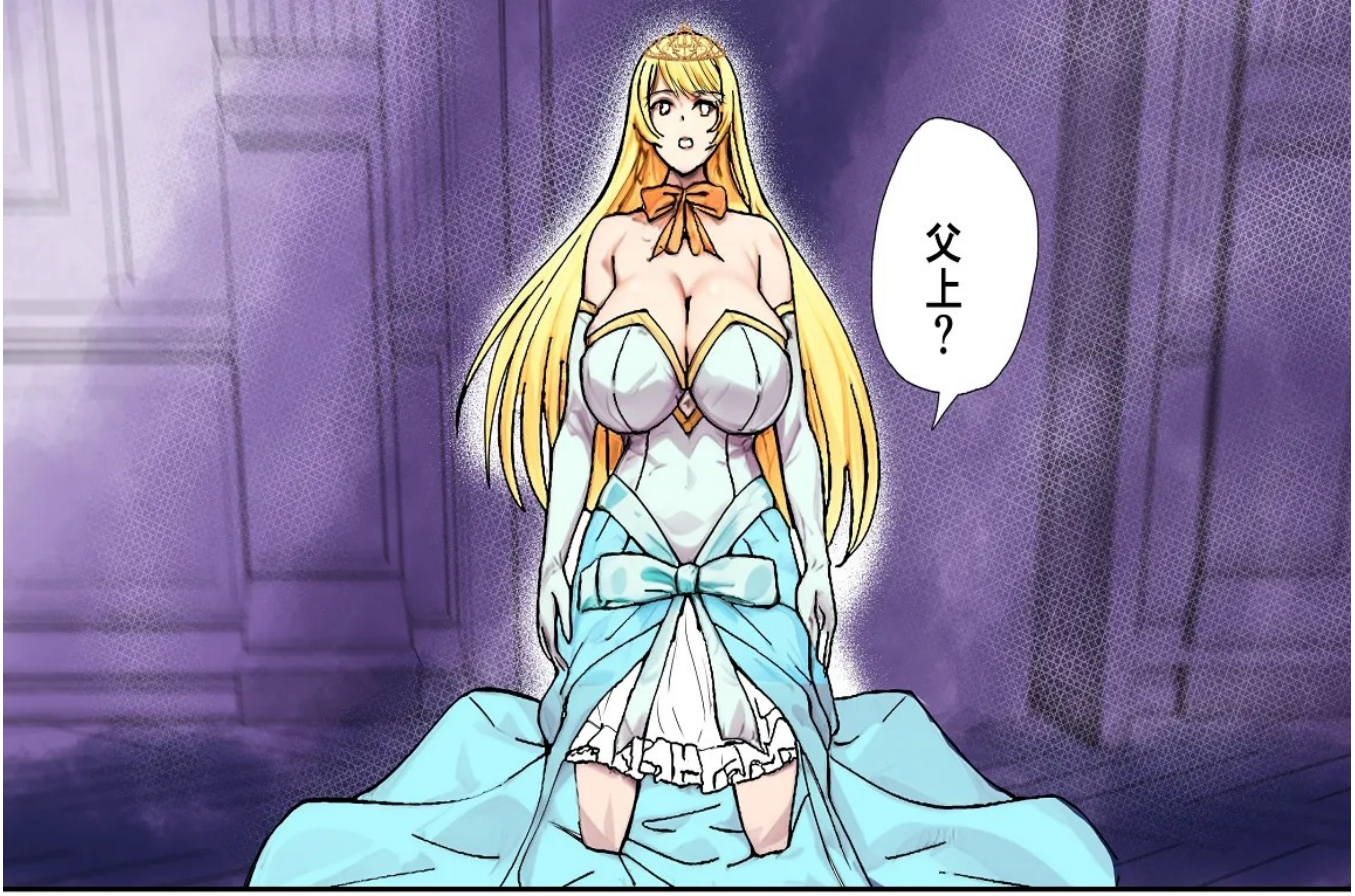
誰か姫を止めて！

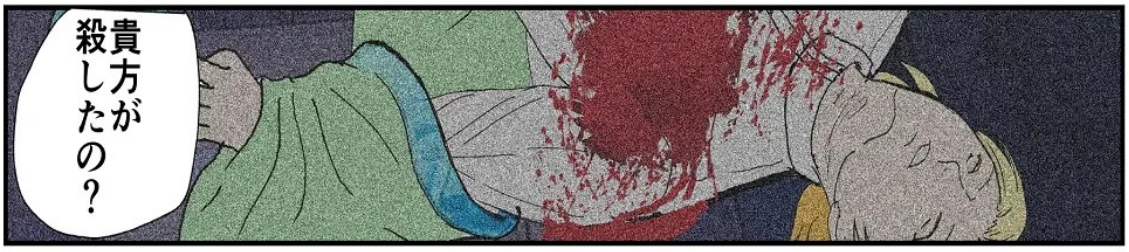
違う
二人とも生きてるはずよ

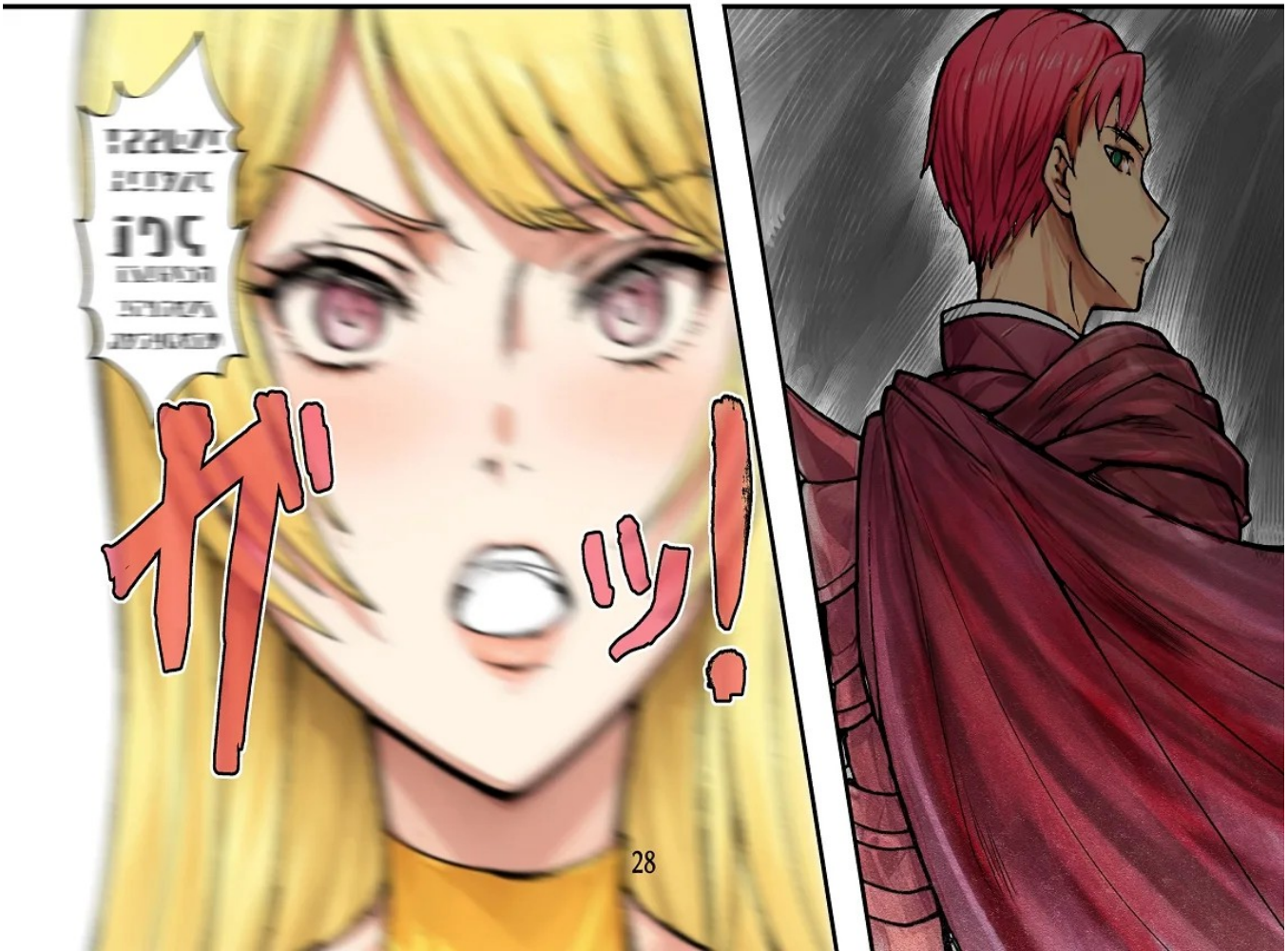

例え私に何があっても二人だけは生きていて

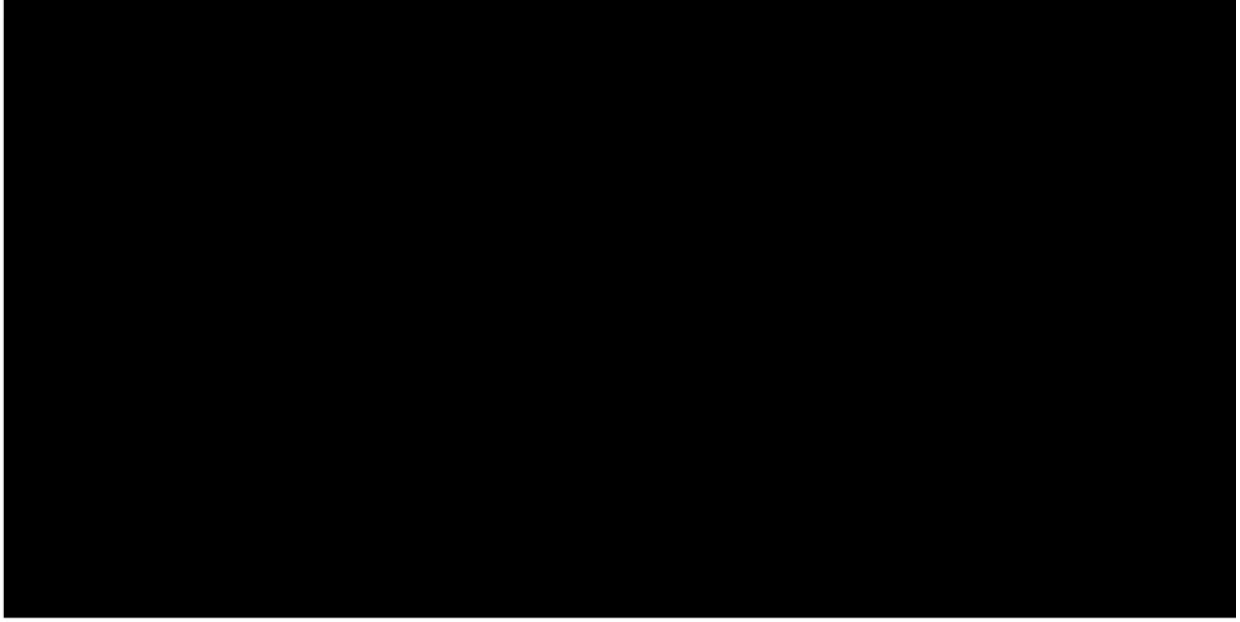
バン
父上！



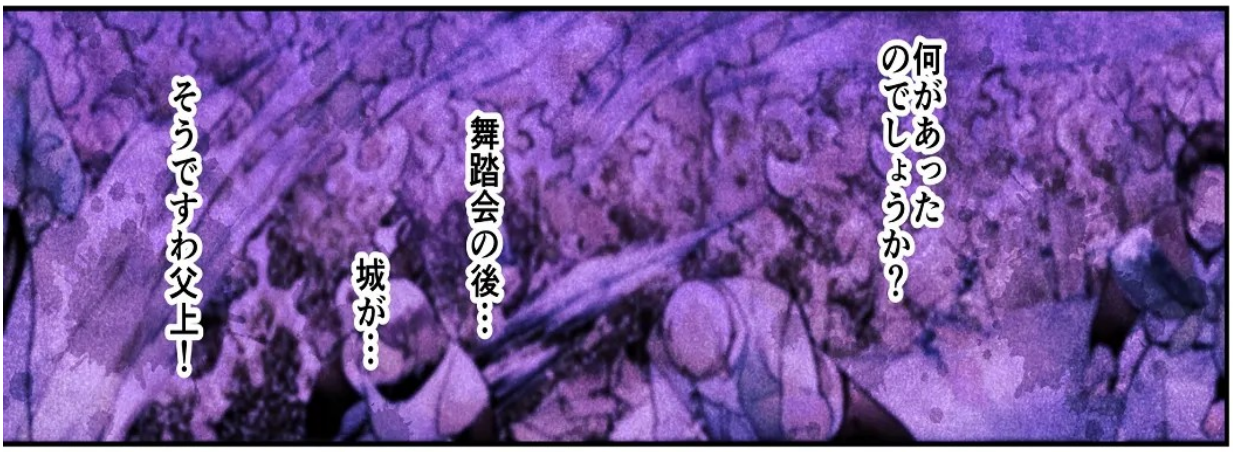

父上？

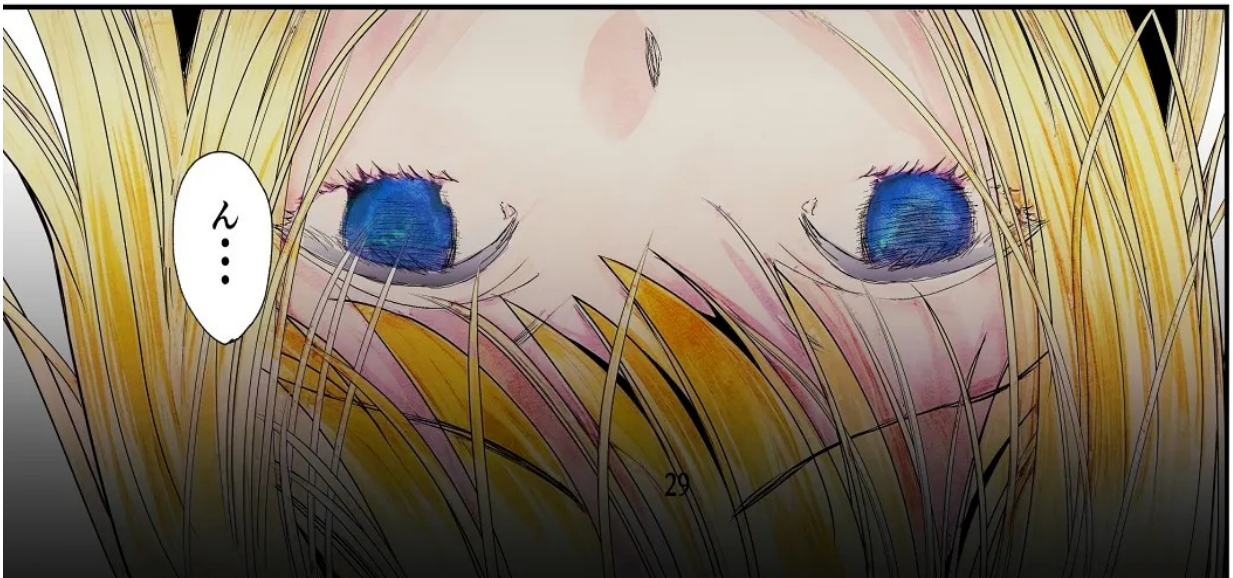

貴方が殺したの？


ガッ！



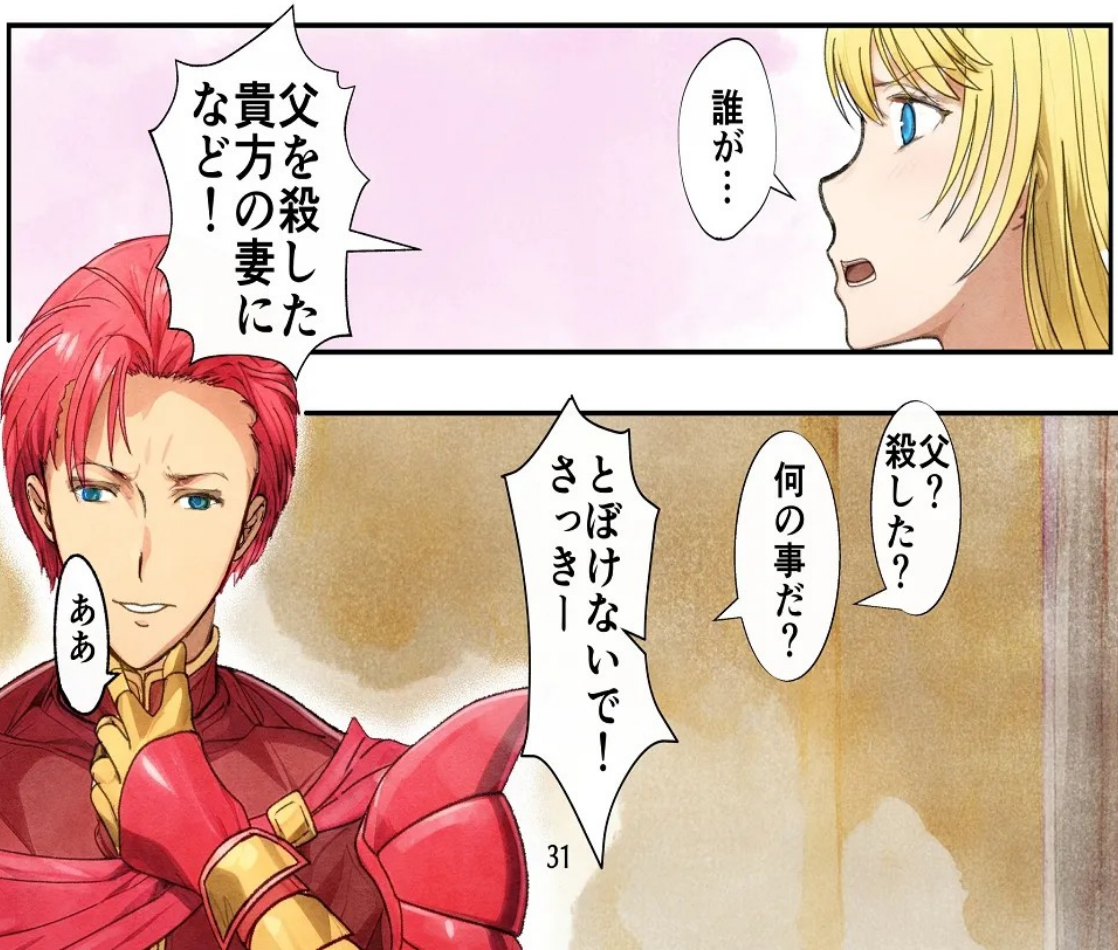
ここは？


何があったのでしょうか？
舞踏会の後…
城が…
そうですわ父上！

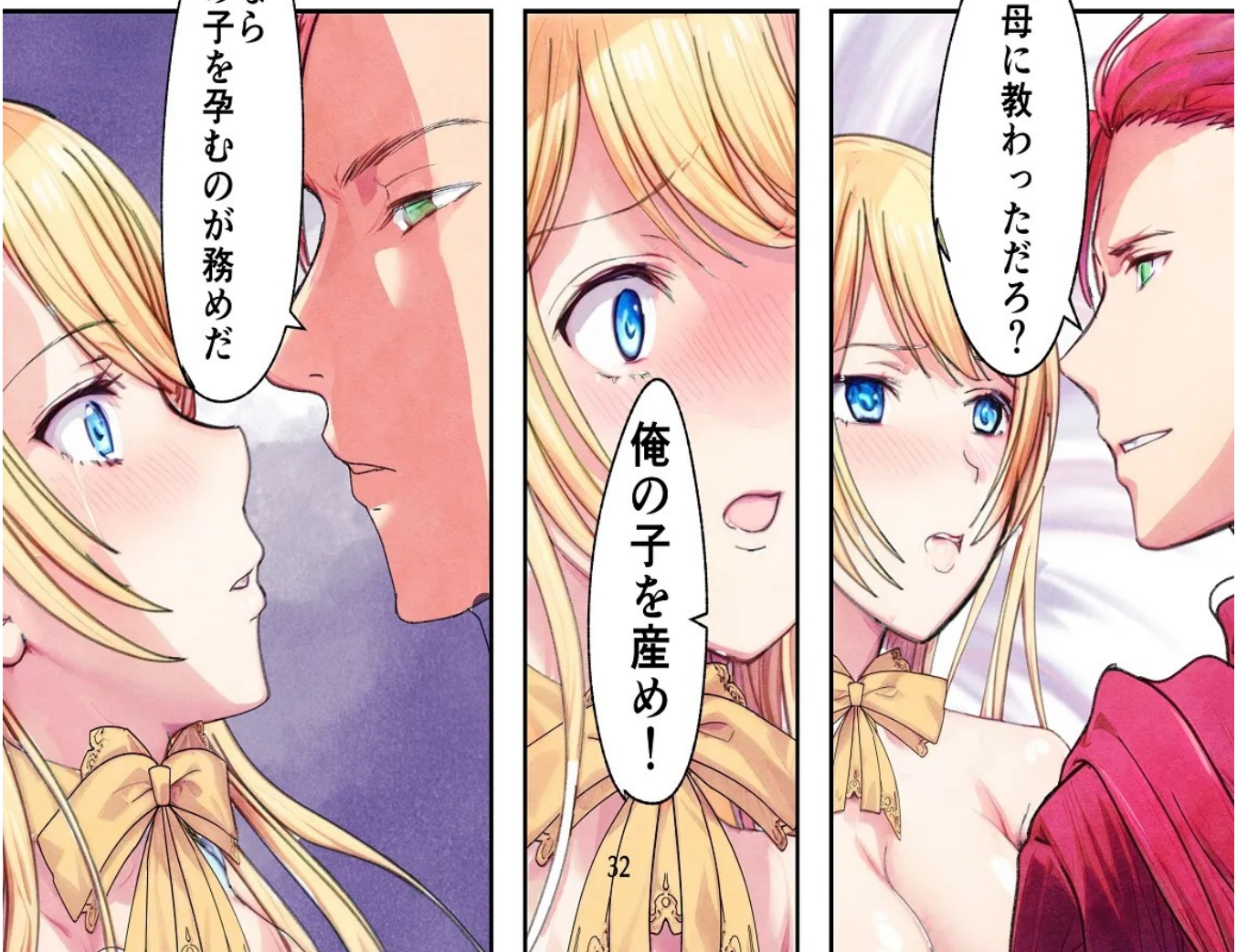

ん…

アルスター王…？
目が覚めたか？
な!?
じゃらっ
食ってかかられたのでね
少しだけ拘束させて貰ったよ
それに

!!
白魔法の血は魅力的だからな
妻にするには相応しい

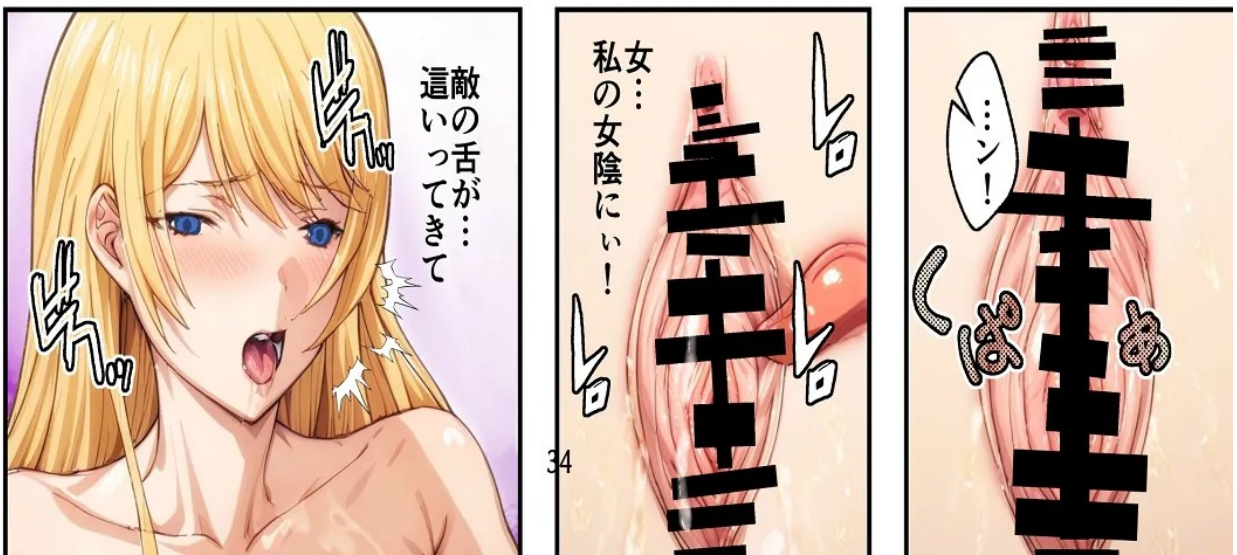

誰が…
父を殺した貴方の妻になど！
父？殺した？
何の事だ？
とぼけないで！さっきー
ああ

そういう事か
きゃあああ！
何を…するの…？！
ぷるんっ
やめっ
ははっ
決まってるだろ？


乳母に教わっただろ？
俺の子を産め！
妃なら
王の子を孕むのが務めだ

言わば実戦経験だ！
セリフと反応があってないぞ！
なんで？私…敵に舌を這わされてこんな声を上げてしまっている！

感度は良いみたいだが
もっと濡らさないとなっ！
そんな不浄(きたな)…
やっ…ああっ
アっ！
ああっ
あン…
い…や…
ひっ！

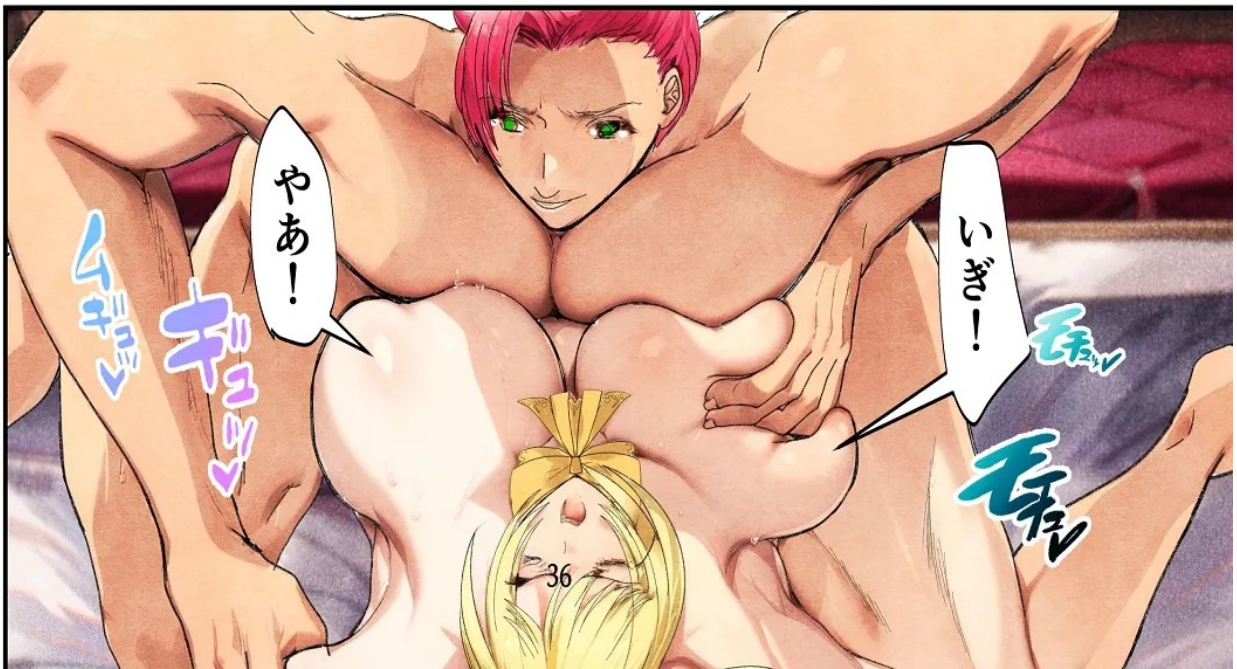

…ン！
女…私の女陰にぃ！
敵の舌が…這いってきて

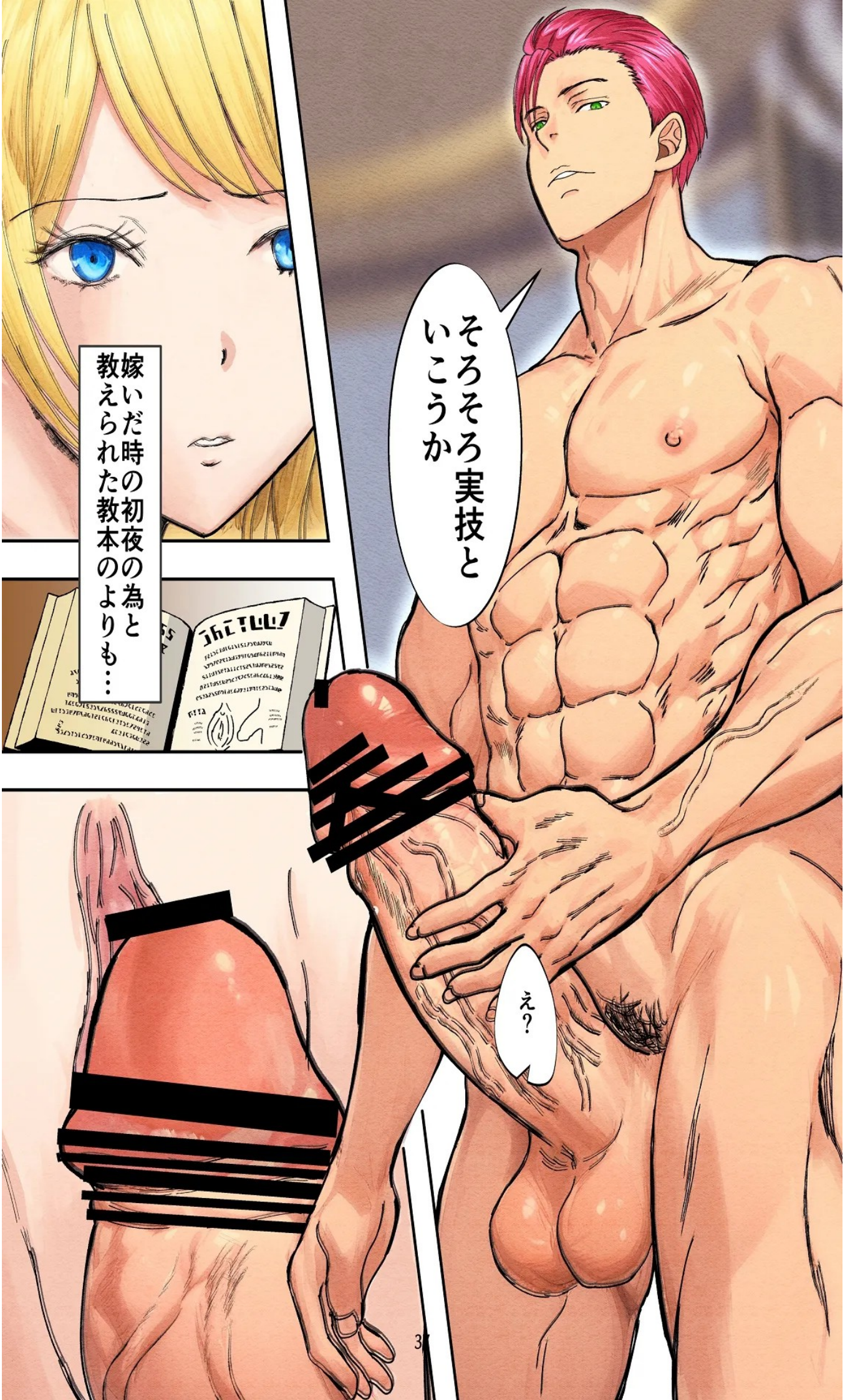
無理やりここを舐められて感じているのか？
ちゅぱ
あ！
違う
!?
ちゅぱ
じゃるるるる
すぐにでもイキそうな位愛液が溢れてるじゃないか！
クチュ
クチュ
クチュ♥

きもちよくなんか！

きらい！
きらい！貴方なんか大嫌い！

そうだ
その眼だ！
その眼で俺を
見続けろ！
俺を憎め！
アンタから全てを
奪った俺を！
はっ
ムギュッ
ギュッ
ギシッ
ギシッ
ああっ


いぎ！
やあ！
ムギュッ
ギュッ
モチュ
モチュ

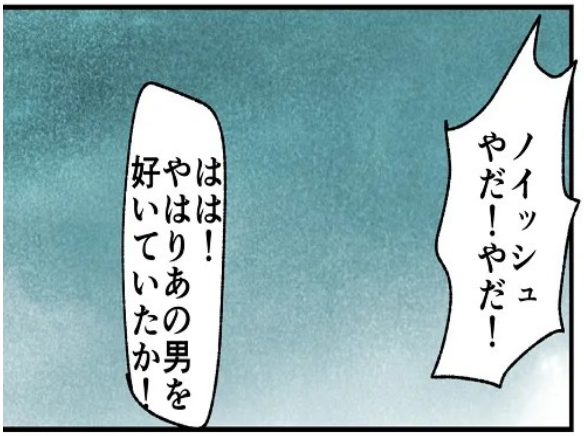

そろそろ実技といこうか
嫁いだ時の初夜の為と教えられた教本のよりも…
え？

こんなの挿入らない…
これだけ濡らせば入るだろ
ぐぐっ…
ずぶっ

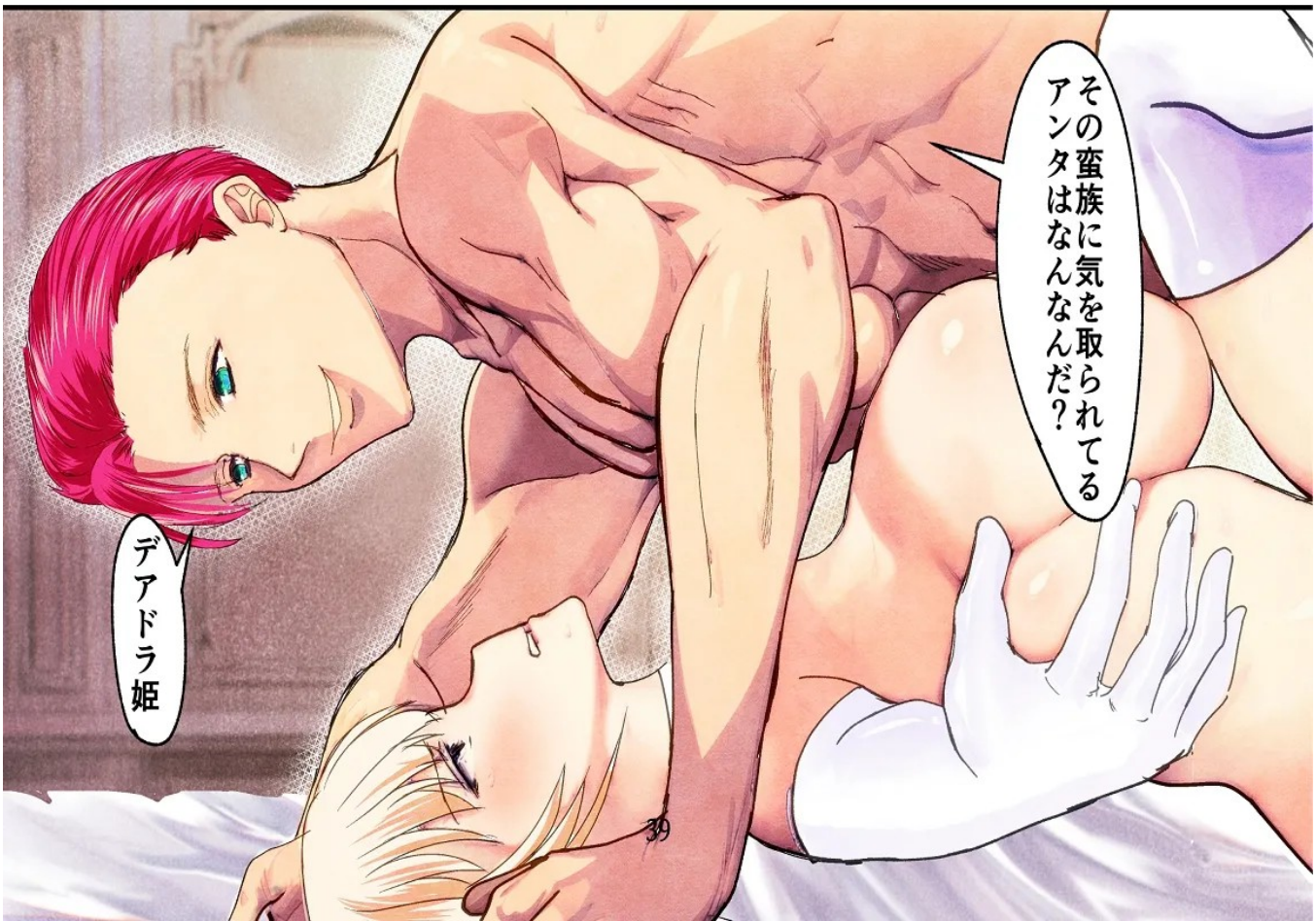
ズブッ!
あぁぁぁぁ!

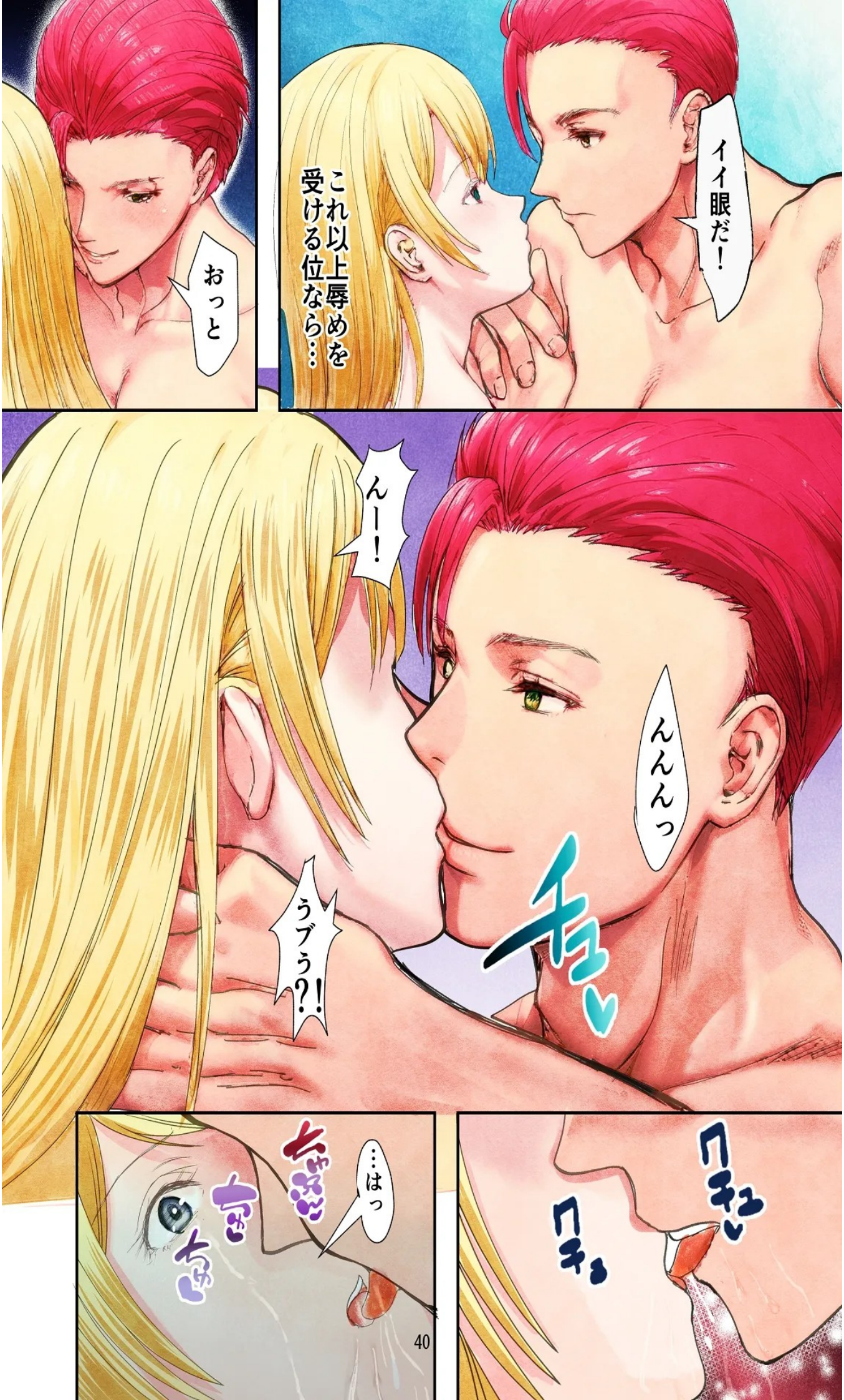
酷い言い様だな

ノイッシュ…


ノイッシュ
やだ！やだ！
はは！
やはりあの男を
好いていたか！

!?
こっ…
この蛮族が！
1pチュッ
1pチュ
1pチュッ
1pチュッ
1pチュッ


その蛮族に気を取られてる
アンタはなんなんだ？
デアドラ姫


イイ眼だ！
これ以上辱めを受ける位なら…
おっと
んーー！
んんんっ
チュ
うブう?!
…はっ
ちゅぷん
ちゅ
ちゅ
クチュ
クチュ

舌が入ってきて
喉の奥まで吸われてる
最中に舌を噛まれて死なれては困るのでね
ん～～～～！
ん！
んんんん！
アンタには孕んで貰わなければな！

まだ怪我をしている我が軍の兵士がいる
父上のぉ…為にも王女としてぇ…
ジュボッジュボッ
やめて！私から出て行って！
ぢゅ
ぢゅ
ぢゅ
嬌声を出しながらのセリフじゃないな！
ちがっ
私の体はぁっ貴方に嬲られる為の玩具じゃない！

こんなのっ
好きなわけない
ずぽっ
ずぽっ
ずぽっ
おぉっ
ズポッ
民の治療を
しなきゃいけないのに
んぐっ
ヤッ
ヤッ
ヤッ
ズポッ
ズポッ
ズポ

んぐぐぐ
無力なお姫様がどれほど気高くあろうと…結末は変わらん
ボッ
ズッ
ズチュッ
ゴチュッ
んんぐぐぐ
ズチュッ
あッ♡
ぜぶぶ
ふっ♡
ズチュッ
ズチュッ
ズッ
ぐぐ
あ〜〜ッ
やッ♡
らめぇ♡
私の誇りも父上の無念も…汚されるわけにはいかない！

ヤッ
んぐッ
んおッ
違う…私はこんな男に…
パン
パン
パン
パン
ぬぷぷ
てこラッ
ごご
こんな…屈辱に…心まで支配されるなんて■
やめでッ
だが、口では拒んでも…身体はすぐに従順になるだろう？
じゅぷぷ
ぷちゅ
ぷちゅ
じゅぷぷ

こうやって後ろから激しく付くと恥辱で感度が増すだろう？
やぁ…
ビクッ
ビクッ
ああああ！
ずちゅん！
こんな風に！
ふふっ
やだッ

反抗する必要も恥じる必要もない
その反抗的な瞳もやがて従順に変わるさ
恐れることはない
ただ俺にすべてを委ねろ――
あんたはもう我が国の妃だ
いや……私は……！こんなこと絶対に受け入れない……！
あんたが俺のものだと理解した時に！
パン！
パン！
パン！
チュッ
チュッ
チュッ

では孕んでもらうか…
はらむって…まさか？
ああ！あんたの膣に俺の種を出してやろう！
いや
いやあああ！
！！

死んだ民…父上…
ビュルル
いいだろう
わたくしの身体を好きにしろ
その代わり
ドルイド王国全員の身の確保を約束しろ
絶対だ！

ああ
安全は保障しよう
ただし
殺意に満ちたその眼がいつまで持つか見物だがな！

男の排泄行為として使われ
その日から一週間私はアルスターに嬲られ続けた
性の教育を受けた
ガニ
く…
くくくくっ
ははははは！
おおおおおおおお

ふふっ
そうだ上手くなったじゃないか

明日にでも高級娼婦として稼げるくらいだぞ

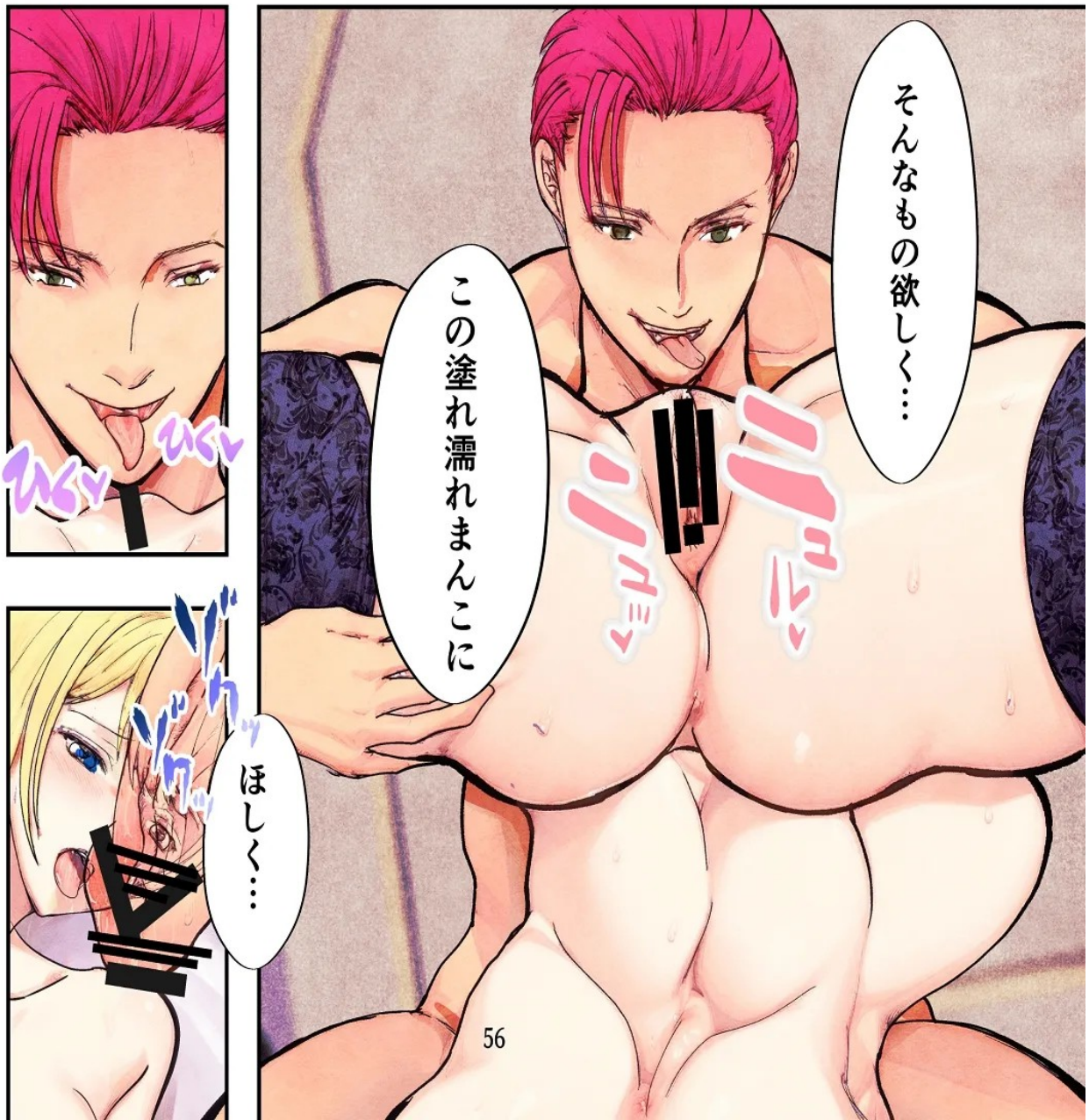
くっ下品な…

褒めているんだ
最初は口でするにも
歯が当たっていたからなあ
ずりずり…
ぎゅっ♡
うっ…
ヤァ
早く終わりたいだけよ
レロレロ

こんな事
女の胸を玩具みたいに
もっと口ですぼめるんだ
ちゅるるっ
モチュッ
ぶちゅるっ
ちゅるるっ
クチュ
クチュ
きゅうう
何度口に含んでも
大きすぎて苦しい
ペニス
ちゅ
ちゅ
ちゅ
ちゅ

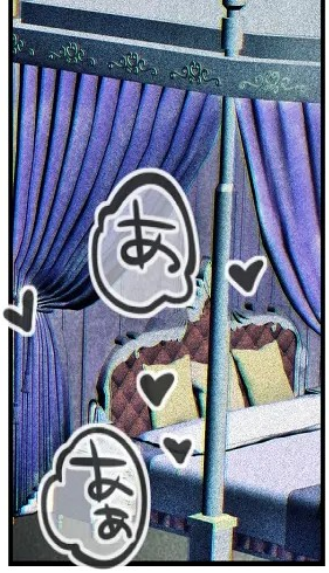
そんな強く揉まないで
わたくしのおっぱいを…
それではフィニッシュといこうか
射精すぞ！
んああ！
ビュッビュッ
やっと終わった
ドサッ
なんだ？俺のを律しただけでこんなに濡れているのか？
ひン！
みっみないでぇ
何度夜伽してもあんたは処女のような事を言うな
トロ♡
トロォ…

どうだ？
レロ
レロ
レロ
俺のが欲しいじゃないのか？
すりすり
欲しくない…


そんなもの欲しく…
この塗れ濡れまんこに
ほしく…
ぴくん
ぴくん
ぴくん
ズボッ
ズボッ

わたくしのいやらしいマ○コにそのたくましいペニ○をぶちこんでください！
ヒク♡
ヒク♡

そんなに欲しいならくれてやろう！
あんたはここで俺に溶けていくんだ
俺だけがあんたのすべてを知る存在になる―
抗うことも拒むことも忘れるんだ
それが最高に気持ちいいだろう？
……ふふ…あぁ…溶けてしまう……
気持ちいい？


あ
あぁ

もっと欲しいぺにす
んんうっ

ぶちゅるっ
やぁぁぁっ

まんこにもおっぱいにもアナルにも顔にも全部ぶっかけて欲しい
ペニスもアルスターも
あぁぁっやぁぁっ

ぶっかけて欲しい
パンパンパンパンパン

孕みたい♥
そんなに俺の子種が欲しいか？
ぐぽっ
ぐぽっ
孕ませて欲しい♥
いいぞッ！

孕ませてくだしゃいいいいい♥
一発で妊娠する濃いのを出してやろう！

ぬぷぬぷ
ぬぷぬぷ

さあ
すべてを忘れろ
ヤッ
あぁ
あ
あっ
やぁあっ
欲望も、痛みも、過去も

……満たして……
あなたで……
イクッ
イクッ
あぁ
あんたの世界は
俺だけで満たされる
ビュルルル

やぁっ
あぁっ
やぁっ
ヒルルル！
あぁん
んんっ
ぷぷ
ぷぷ

何がだ

よろしいのですか？

デアドラ様に本当の事をお伝えしなくても
亡き妻デアドラ様のお母上を蘇らせるため黒魔術に手をそめ

国民全員をいけにえに捧げようとした事を

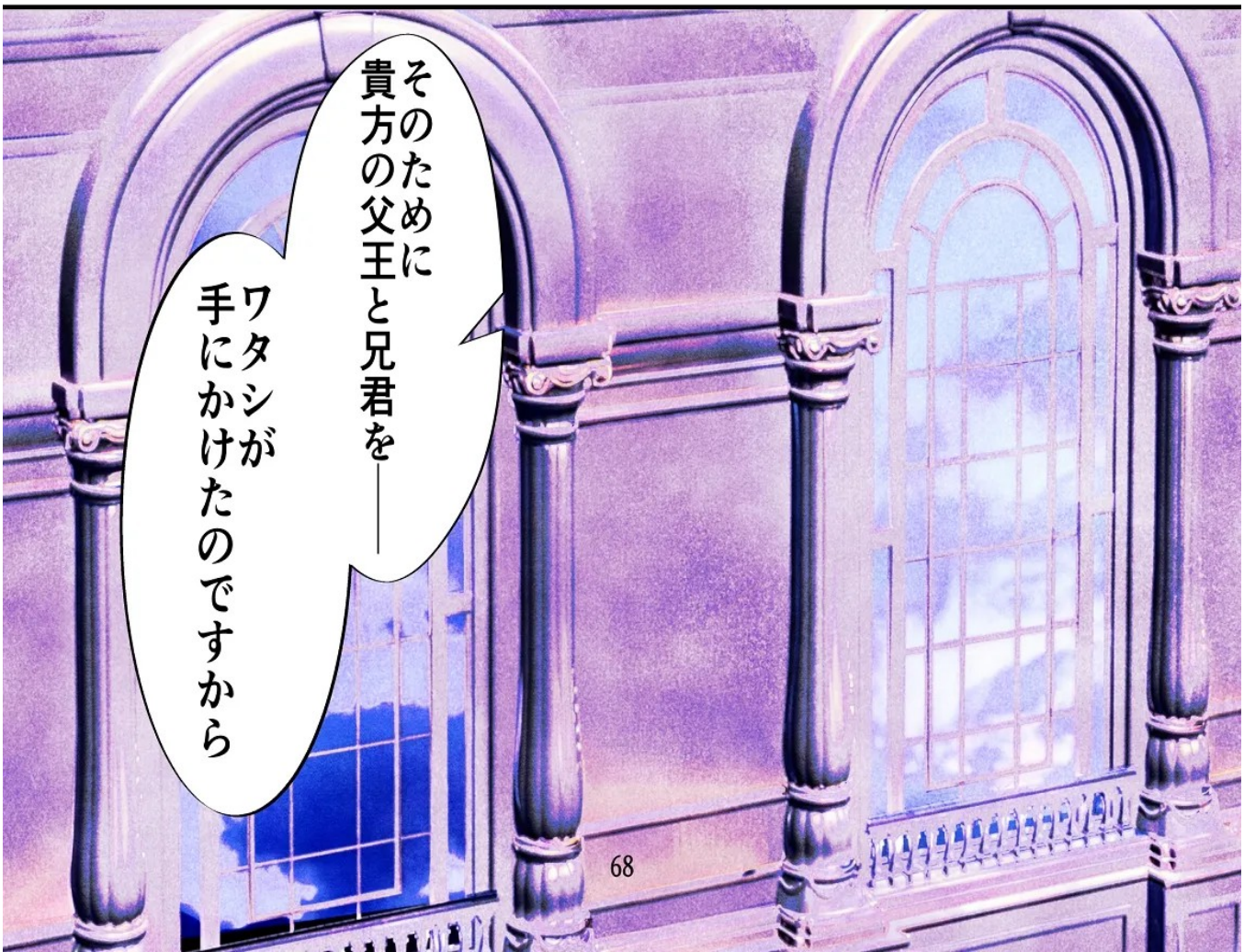
その結果魔力の反動で—
不要だ
父を慕っているのに

その父が外道に堕ちたなど—

ひっく
あなた
なんで泣いてるの？
な
何でもないよ
パアア
手貸して
ほっぺも
治したよ
ありがとう…
ホーリーは無理でも
ケアルラは使えるの
まだ…
傷む？

末弟かつ母の身分が低く
父や兄に疎まれていた
俺に
怪我なら
君が直したろ？
そうじゃないよ
「もう一つの怪我」
初めて
ふれてくれた人

ワタシは貴方が王位につきさえすれば何も言いませんよ


そのために貴方の父王と兄君を――
ワタシが手にかけたのですから

サークル：Killout
発行者：さやかっぱ
Pixiv:11409852
X:killout_961
発行日:2025/03/20

レビューありがとう企画

ご購入ありがとうございます。

「敗戦国ノ王女」のレビューを書いていただいた方限定
描きおろしイラスト１Pをプレゼントします。
ここが良かったとか30文字でもOKですｗ

1.レビュー画面
2. 購入遍歴

上記2点のスクリーンショットを添付の上、件名に
「敗戦国ノ王女レビュー企画」と記入し
下記メールアドレスに送付してください。

misaki10ka@gmail.com

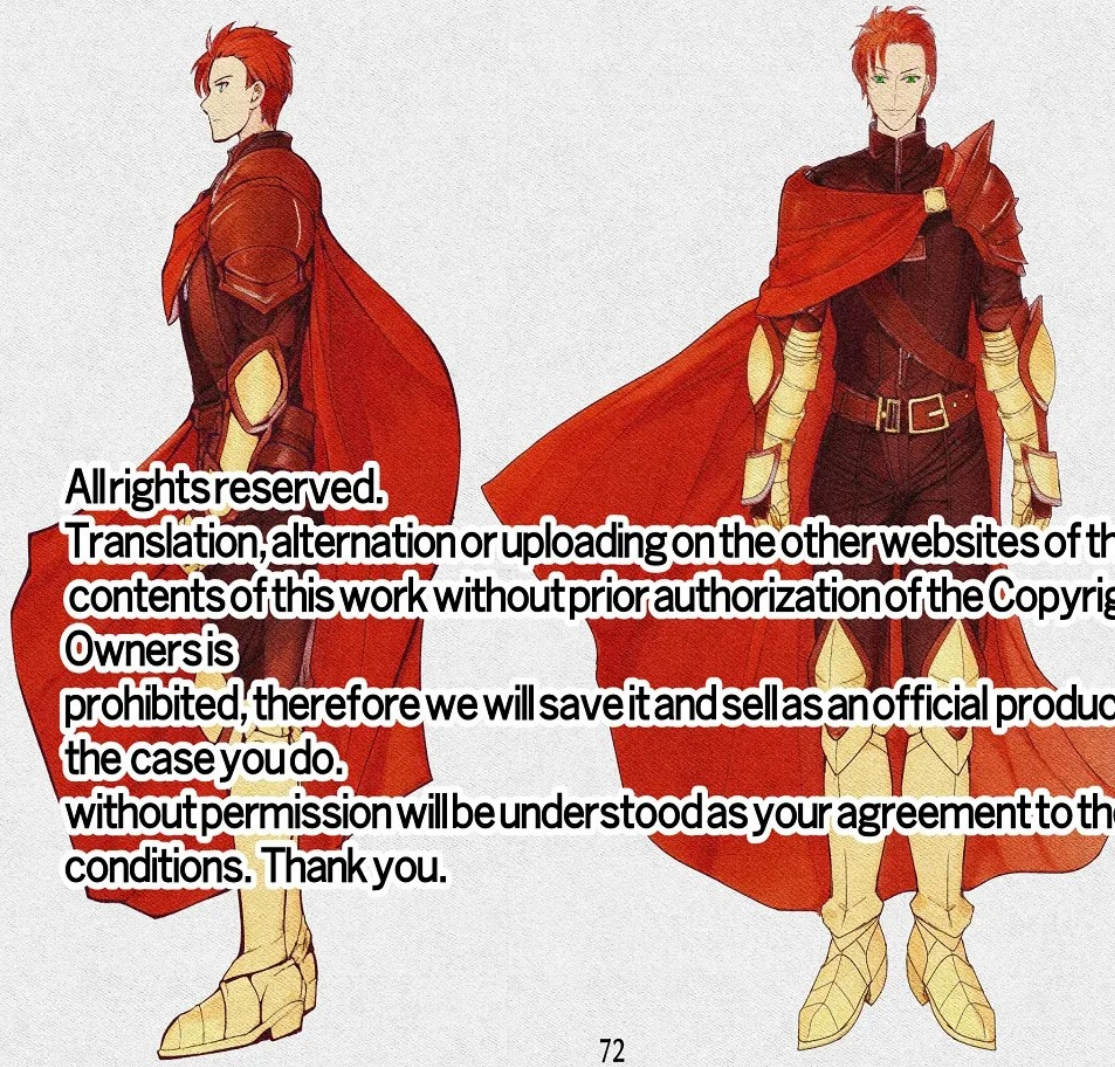
レビューの〆切は2025/06/08まで

この漫画の著作権はサークル「Killout」にあります。
サークル「Killout」に許可なく、インターネット上にアップロードする行為は犯罪です。(著作権法第23条)
10年以下の懲役もしくは1000万以下の罰金、またはその両方が同時に課せられます。(著作権法第119条第位1項)

本作品の転載・複製・改変・翻訳等はいかなる場合も禁止します。

本作品を許可なく翻訳し、インターネットにアップロードした場合、作者がそれを保存し正規品として販売します。
アップロードされた時点でこれに同意したとみなします。

発見した場合、すぐに法的措置を取り、警察に通報します。



All rights reserved.
Translation, alternation or uploading on the other websites of the contents of this work without prior authorization of the Copyright Owners is
prohibited, therefore we will save it and sell as an official product in the case you do.
without permission will be understood as your agreement to these conditions. Thank you.

王女調教録
敗戦国ノ牢獄

ドルイド王国は滅んだ。焦土と化した大地に、かつての誇り高き王国の面影はない。血と煙が充満する中、城の瓦礫に埋もれた紋章だけが儚く輝いていた。

「……裏切り者め……！」

か細い声で呟くデアドラの腕には、冷たい鉄の枷が嵌められていた。美貌は憤怒と無力感に歪んでいる。――近衛隊長が王国を裏切ったと聞かされた瞬間から、心に渦巻く怒りは消えない。守るべき国を見捨て、敵へ寝返った者に対する憎悪だけが、敗北の痛みをかき消していた。

「悔しいか？王女様」

暗い地下牢に響く冷ややかな声。デアドラが顔を上げると、そこにはフロイヒ国王アルスターが立っていた。青色の瞳が嘲笑を浮かべ、王者の余裕を見せつけるように冷たい微笑を浮かべている。

「忠誠を誇っていた近衛隊長に裏切られ、王国は滅びた。あんたの誇りも共に砕け散った。」

「守るべき者に殺された無様な王女。だが安心しろ。あんたの役割はまだ終わっていない。」

アルスターは鎖を引き寄せ、デアドラの身体を強引に引き倒す。

荒々しい手つきで顎を掴み、視線を絡め取るように囁いた。

「ここからは俺が支配してやる。心も、体も、全てだ。」

「ドルイドの誇りを抱えたまま、俺の快楽に堕ちていけ。」

デアドラの胸中を支配していた怒りは、冷たく湿った恐怖へと変わっていく。アルスターの執着に満ちた視線が絡みつき、逃げ場を失った獲物のように震える。絶望と屈辱が混じり合い、かすかな希望すらも打ち砕かれる感覚に包まれた。

「抵抗してもいい。無駄だと理解させるまで、何度でも。」

アルスターの唇が耳元に触れ、冷たい吐息が肌を撫でる。

「あんたの王国も誇りも、すべて俺だけのものだ。」

デアドラの胸に湧き上がるのは、憎悪か、恐怖か、それとも――

答えは、やがて始まる狂気の調教によって暴かれることとなる。

――滅びの王女は、今宵すべてを奪われる。

いや…っ！やめて…！
誰か…助けて…！
フッ…誰に助けを求めている？あんたの国も、あの男ももういないのに？
う、嘘よ…ノイッシュはきっと…！
嘘かどうかあんたの身体に刻んでやる…この俺のものだと…な
何度でも教えてやるあんたは俺のものだ…逃がしはしない…！

ふふ、まだ出るとはな……
王女様はどれだけ
従順になった？
こんな薬なんかで…
どうして…！
体は正直だな
素直に俺のものだと
認めろ
恥ずかしい……こんな姿
誰にも……見せたくない……
ん゛ッ
ん゛ッ
きゃ
くくっ
堕ちたあんたも
誇り高き王女も
どちらも俺だけのものだ

熱い…身体の奥が
焼けるように…っ！
デアドラあんたは
俺のものだ
この身も子を宿す
その腹もな
受け入れろ、俺の種を
これであんたは
フロイヒの牝だ
王女だろうが関係ない
俺の子を孕んで
すべてを捧げろ
だめ…このままじゃ
アルスターの子を…！
逃がさないぞ
何度でも孕ませてやる
何度も注ぎ込まれて…
もう逃げられない…
震えてるな…
だが体は素直だ
俺の種を喜んで
飲み込んでいる
王女なのに
こんな形で…！

母乳を搾られながら
膣に注がれる気分はどうだ？
嘘…飲まされた
薬のせいで
こんなに…！
王女の乳とは思えないほど
溢れてるじゃないか
やだ、搾られるたびに…
お腹の奥が熱くなって…っ
薬の効果は抜群だな…
もうこんなに滴ってるぞ？
おかしい…！こんなこと
されたくないのに…！
膣もすっかり孕む
準備ができたようだな
ん〜〜…
違う…！私はこんな…
孕むつもりなんて…！
膣の中…熱い…っ
こんなに出されたら…っ
いいぞ、そのまま俺の子を
育てる体になれ

ああっ
またイってしまう！
こんな形で心が
満たされるなんて……
許されないのに……
いい顔だ
熱い……でも
どうして……
嫌じゃない……
何度泣いても許さない
もっと堕ちろ、デアドラ
苦しそうに震えるのも
悦んで乱れるのも
全部俺だけのものだ
だめ……！
こんなの……もう……！

王女なのに……っ！
こんな、牝みたいにされて……！
王女？そんなもの
今のあんたに
何の意味がある？
ほら、どこを触れても
滴るようになってるぞ？
搾られて……
奥に注がれて……！
こんなの、私の身体じゃない……っ！
大人しく受け入れろ……
あんたはもう
俺の器なんだからな
私の中で……あぁ……
そんなに、出さないで……っ！
俺の子が育つんだ……
それが王女の義務だろ？
お願い……もうやめて……っ
お腹の中、熱いのが
流れ込んで……！
これが母になる身体だ

熱い…身体の奥が焼けるように…っ！
デアドラあんたは俺のものだこの身も子を宿すその腹もな
受け入れろ、俺の種をこれであんたはフロイヒの牝だ
王女だろうが関係ない俺の子を孕んですべてを捧げろ
だめ…このままじゃアルスターの子を…！
逃がさないぞ何度でも孕ませてやる
何度も注ぎ込まれて…もう逃げられない…
震えてるな…だが体は素直だ俺の種を喜んで飲み込んでいる
王女なのにこんな形で…！

母乳を搾られながら
膣に注がれる気分はどうだ？
嘘…飲まされた
薬のせいで
こんなに…！
王女の乳とは思えないほど
溢れてるじゃないか
やだ、搾られるたびに…
お腹の奥が熱くなって…っ
薬の効果は抜群だな…
もうこんなに滴ってるぞ？
おかしい…！こんなこと
されたくないのに…！
膣もすっかり孕む
準備ができたようだな
ん〜〜…
違う…！私はこんな…
孕むつもりなんて…！
膣の中…熱い…っ
こんなに出されたら…っ
いいぞ、そのまま俺の子を
育てる体になれ

ふっ…
視えない恐怖というのも
なかなか悪くないだろう？
いや…いやっ！
こんなの、嫌…！
助けて…ノイッシュ…！
何も見えない…怖い
あんたの身体が
俺を覚えるまで…
じっくりと調教してやるさ

ふふ、まだ出るとはな……
王女様はどれだけ
従順になった？
こんな薬なんかで…
どうして…！
体は正直だな
素直に俺のものだと
認めろ
恥ずかしい……こんな姿
誰にも……見せたくない……
くくっ
堕ちたあんたも
誇り高き王女も
どちらも俺だけのものだ

熱い…身体の奥が焼けるように…っ！
デアドラあんたは俺のものだこの身も子を宿すその腹もな
受け入れろ、俺の種をこれであんたはフロイヒの牝だ
王女だろうが関係ない俺の子を孕んですべてを捧げろ
だめ…このままじゃアルスターの子を…！
逃がさないぞ何度でも孕ませてやる
何度も注ぎ込まれて…もう逃げられない…
震えてるな…だが体は素直だ俺の種を喜んで飲み込んでいる
王女なのにこんな形で…！

母乳を搾られながら
膣に注がれる気分はどうだ？
嘘…飲まされた
薬のせいで
こんなに…！
王女の乳とは思えないほど
溢れてるじゃないか
やだ、搾られるたびに…
お腹の奥が熱くなって…っ
薬の効果は抜群だな…
もうこんなに滴ってるぞ？
おかしい…！こんなこと
されたくないのに…！
膣もすっかり孕む
準備ができたようだな
ぐ～～…
違う…！私はこんな…
孕むつもりなんて…！
膣の中…熱い…っ
こんなに出されたら…っ
いいぞ、そのまま俺の子を
育てる体になれ